

■住宅ローンの変動金利に保険をかける～その2～

前号では、変動金利と固定金利のメリットとデメリットのお話をしました。変動金利は将来金利が上がらないということを願う「賭け」みたいなものというところまでお話ししました。

ローンを組まれてる方は、全期間固定でない限り、「将来にわたって、金利は上がらないでほしい」と思ってるかたがほとんどだと思います。

しかし、資産運用されている方は、「将来にわたって、金利（運用利回り）は上がり続けて欲しい」と思ってる方がほとんどです。

結論から言いますと、「変動金利に保険をかける」というのは、その両方を同時にしてしまえば、将来、金利が上がっても、上がらなくても、手元に残るお金は多くなるということです。

でも、「ローンの金利は上がって、資産運用の利回りが下がること」も考えられるのでは？と思われるかもしれません。

もちろん、運用方法次第では、そうなることもあるでしょう。しかし、「そもそも、住宅ローンの金利はどのように決まるのか？」をしっかりと理解していれば、全く問題ありません。

最近の変動金利の住宅ローンの店頭金利は、「短期プライムレート」の金利に1%を加算した数字と全く同じです。短期プライムレートは、公定歩合に若干の連動性があります。（ムズカシイ専門用語の説明は次回にします。）そして、公定歩合は、世の中の景気に連動します。

一方で、「株」も世の中の景気連動します。景気がよければ、株の値段も上がりやすし、景気が悪いと株の値段は下がります。また、公定歩合も、景気が良くなると、市中に出回る貨幣を抑制しようと、金利を引き上げ、貨幣の流通量を抑えます。そうすると、金利も上がってします。



著作・発行 浜松ファイナンシャルプランナーズ事務所

運用や預貯金の見直し、保険見直しをご検討中の方は**イマズグ電話無料相談（053-474-8266）**をご利用下さい。

〒433-8122 静岡県浜松市上島6-1-31 美建ビル3F

電話 053-474-8266（FAX兼用） 携帯 090-5616-1263

メール yamachan0511@ybb.ne.jp

ホームページ : <http://www.hamamatsu-fp.com/>

グーグルで「浜松 FP」と入力して
一番最初にでてくるところ。

山中崇寛 : 本を読んで泣くことの多いFP

大石ゆき : 毎月70枚以上の保険証券分析してるFP

<スタッフのひとりごと>

久しぶりに会うお客さまには、「かわったねえ～」とよく言われますし、初対面のお客さまには、写真と違うねえとよく言われます。なので、今日はさっきとったばかりの



ありがとう通信 2006.11 第19号

浜松ファイナンシャル
プランナーズ事務所

第1号から読みたいという方はご連絡ください(053-474-8266)。
当社のホームページからダウンロードできるようにしました。

今月のピックアップ

- ・お客さまのご感想！ありがとうございます。
- ・中学生以来の読書感想文(大石)
- ・住宅ローンの変動金利に保険をかける(山中)

秋といえば読書の秋。
「命」の大切さについて、
小学の先生が書いた大変
素晴らしい本を紹介します。

■お客さまの声～ありがとうございます～

皆様からお寄せいただく、感謝の声は私たちがプロとしてFPサービスを提供し、改善し続けるために役立つともに、この仕事をしていく上で最大のエネルギーになります。どうもありがとうございます。今回は、資産運用から2年たち、追加相談を御希望されたお客さまのお声です。どうもありがとうございます！！

昨秋、大学時代の友人達と久しぶりに再会した折の話題は、やっぱり「子供の教育」と「夫婦の今後(定年退職後)の生活設計」でした。またまた教育費のかかる子供達。10年もたてばやってくる定年…。当然のことです。

私が「FPさん=保険見直しをしていたら、資産運用を始めた…」と言った時の友人達の驚いた顔!!

「石橋を渡る前に、叩きすぎて壊してしまうような、慎重すぎる。怖かっの、あなたか?!!」と一同絶句!!

話をしていくうちに、友人達からは「信頼できるFPさんに会えて、幸せねえ…」と、うんやましかられてしまいました。景外の人達はカリなので、山中さんを紹介できなくて残念。けれども、「見守り保険に入る時の参考にしたいから、教えて…」と問い合はせがあったり、それぞれ「少し勉強してみよう!」と考え始めたようでした。

山中さんに御相談してから、あという間に2年が過ぎて、運用の成果から、はっきりと目に見えてきて、「夫の定年なんか、怖くない!!」と実感しています。 取っつきがらすに、勇気を出して一歩を踏み出してよかったと思っています。

今後夫、末長くお世話になります。

島田市50代ご夫婦様

先月に引き続き、資産運用相談を御利用になって2年が経過したお客さまの追加相談の御感想です。当社は、開業して3年弱ですので、2年以上経過したお客さまの成果はまだありません。しかし、相談をされて1年以上経過した方で「マイナス運用」の方が1人もいないのも事実です。過去の実績は将来のリターンを約束するものではありませんが、保険見直し同様、多種多様の雑誌や書籍を読むことで「知識の収集」、そして溢れる情報の中から「情報の整理」を行うことが大変な方は、FPの力を借りることで簡単に解決すると思います。もちろん、FPにも「当たり、ハズレ」がありますので御注意を。(山中)

「不平不満を言えることは幸せ・・・」

〇先生

平成十八年十月三十日

拝啓 いつも大変お世話になっております。
 だいぶ涼しくなり、秋の深まりを感じられる今日この頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。
 先日、山中F.P.の先生の著書「ぼく、だいじょうぶだよ」を拝読しました。
 最後の最後まで周囲への感謝と思いやりを忘れることなく、短い人生を懸命に生きた暢大くん、またそれを一生懸命に支えられたご家族や〇先生、5年3組のクラスメイトたちに大変心を打たれ、このような良本をぜひ一人でも多くの人に読んでもらいたいと、まずは小学校4年生の息子に読ませました。
 本を読むのが好きで、いつもならすぐに一冊読み終える息子ですが、どういわけか三日はかけて読みました。
 人の生と死をいたすに不安がる、多感な時期ですので読み進むことが怖かったのかも知れません。でも、だからこそ意味があると私は思います。
 デリケートな内容ですので、あえて読後の感想は聞きませんでした。が、きっと何か感じ取ってくれたことと思います。
 この本は、暢大くんと同じ年頃の子どもたちにも思いやりや命の大切さ、今でできることと今しかできないこと、頑張れることは幸せなのということ等々、本当に多くのことを教えてくれます。
 でもそれだけではないと私は感じました。
 子育てに悩む多くの大人にもいろいろな事を教えてくれると思います。
 私自身この本を読み終えたとき、我が子をとてもしんどく感じました。
 子どもが生まれたとき、ただ生まれてきたということにとても感謝し、この子がここにいてくれて嬉しかったことを思い出しました。
 この本を読んだことで、我が子がここにこうしてただ生きていてくれることが、こんなに大切な事実なのだと再認識しました。
 1年ほど前3人目の子どもが生まれ、1番上のお姉ちゃんに手をあげる回数が増え、ずいぶん増えてしまったと悩んでいた友人にこの本を読んでもらいました。
 その友人が、感想をよせてくれましたので書き添えたいと思います。
 子育てにおいて、自分の感情のコントロールができず悩んでいた私に、大石さんが「読んでみて」とこの本を渡してくれました。
 涙が止まりませんでした。
 小5の彼には耐えがたい苦しさ、痛み、そして不安と恐怖があったと思います。
 支えてくれた周囲の方々も、どうする事もできない悔しさと悲しさでいっぱいだったと思います。
 暢大くんはそのことを感じていたのか、元来精神力が強かったのであろうか…自暴自棄になることなく、最期まで希望と周囲への思いやりを持ち続けていました。
 私にも暢大くんのような精神力の強さ、思いやる気持ちがあれば子どもたちにも、もつとたくさん笑顔を取り囲んであげられるんだろうなあ…と感じました。
 また本の中で「不平不満が言えるだけでも幸せ」という文章がありました。
 確かに、生きているからこそ不平不満が言える事実。
 そのうえ私は今健康に生きている。それだけでもありがたい事と知っていたながら、日常においては生きていることが「当たり前」となり、さらに多くを自分にも、子どもにも、周囲にも求めています。
 心が乱れたときこそ、冷静に「命ある幸せ」を考えることができたなら、私の言動は大きく異なってくるでしょう。
 しかし、なかなか理想と体はイコールにはならず、この先も私は葛藤し続けています。
 「命」について再度考えさせてくれたこの本に感謝いたします。
 そして、今もまた他の友人に読んでもらっています。
 身近な場所での出来事ということで、親近感もあるかも知れませんが、多くの人が表紙の暢大くんの屋敷のない笑顔や、文面から滲み出る暢大くんの人柄に心を打たれる事と思います。
 そして、読む人全てに感銘を与えたいと思います。
 この本がぜひ、多くの人に読まれることをお祈りします。

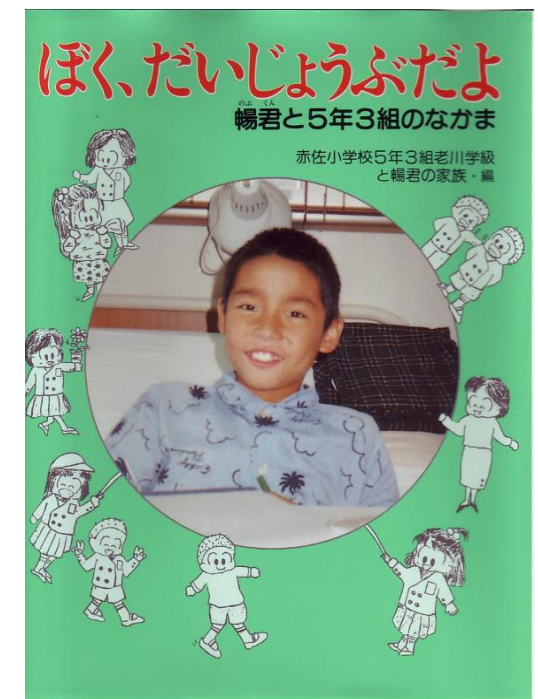
敬具

浜松ファイナンスプランナーズ事務所

大石 ゆき

心に響く本、限定20冊プレゼント！

私も、山中も感動し、そして「命」について再認識したこの本（左の写真参照）を20冊限定でプレゼントします！！
 ご希望の方は、お電話でお申し込み下さい。
 電話番号
 053-474-8266
 担当 大石ゆき
 数量に限りがありますので、先着とさせていただきます。受付期間は、11月10日～31日までの土日を除く日とさせていただきます。（大石）
 追伸（山中）
 御相談を依頼されたお客様から頂いた本です。本を読んで泣くことはよくあるのですが、この本はいつもより泣けた本です。「生きてるのではない。生かされてるんだ。」という母の言葉を思い出させる1冊でした。



(A5・ハードカバー・207ページ)

の5年生だった上谷暢大くんが、4ヶ月にわたり骨肉腫という病気と闘った、そしてそれを支えたクラスの友達、担任の先生、ご家族の記録です。

いろいろな事件やいじめや自殺など、いろいろな学校による問題の多い昨今、私たちは大切なものを忘れていような気がします。一番大切なものは何か、幸せとは何なのか、そういったことを考えさせてくれる本です。

写真も入り、字も少し大きめで、漢字にはふりがなも入っていて、小学校中学年くらいから大人まで読むことができます。

残念ながらこの本は、本屋さんでは売っていません。でも、著者（暢大くんの当時の担任の先生が著されています）のご厚意により、このありがたい通信をお読みいただいた方に、お分けしていただけることになりました！



大石ゆきです。長男（9才・小四）長女（7才・小一）、次女（5才・年中）の3児の母でもあります。地域の運動会で障害物競走に参加。勢いよくデングリ返りをしたら、クラッ。三半規管の老化…とは思いたくない(´_`)

先日、七五三の写真を撮ってきました。久しぶりに私も着物を着ました。着慣れないものを着て、疲れてしまいましたが、やはり和服はいいですね。その日だけ、お行儀良くなりました(´_`)

～♪～♪～ 本のご紹介 ～♪～♪～

とても良い本に出会いましたので、みなさまにご紹介させていただきます。
 「ぼく、だいじょうぶだよ ～暢君と5年3組のなかま～」というタイトルのこの本は、